

令和元年10月25日（金）

「 企業見学会に行ってきました！ 」

10月25日（金）、2年生（教養、文理クラス合同）が大槌、釜石地区の企業を訪問しました。午前中は全員で日本製鉄（株）釜石製鉄所、釜石地方森林組合を訪問しました。午後はコースごとに分かれ、（株）千田精密工業大槌工場と（株）津田商店 を訪問しました。7月に行われたインターンシップを含めると今回で企業を訪問するのは2回目です。それぞれ、訪問先の従業員の方々の説明を、一生懸命メモを取りながら聞き、積極的に質問もしました。



出発式の様子。一日お世話になる「沿岸広域振興局」の4名の方々に全員で元気に挨拶をし、企業見学ツアーがスタートしました。

バスに乗り込み、いよいよ出発！



【日本製鉄（株）釜石製鉄所】

はじめに向かったのは、「総合力世界No.1の鉄鋼メーカー」という目標のもと進化を続ける「日本製鉄（株）釜石製鉄所」。全国にある「日本製鉄」の中でも金属を細く伸ばした「線材製品」を製造しています。

釜石製鉄所の歴史を学んだ後、実際に線材部品を製造している現場を見学。ヘルメットと軍手を装備し、「安全第一」で見学に臨みました。真っ赤に熱せられた鉄が細い線となって機械から出てくる様子、そして熱気に圧倒されました。

最後に、先輩社員との交流会も開催していただきました。管内出身の先輩を中心に、1年目～3年目までの新入社員の皆様に直接質問したり、体験談を聞いたりと普段の生活ではできない経験もしました。年齢が近い先輩方の本音トークから高校生のうちにしておくべきことなど、様々な話題で終始盛り上がった様子でした。



【釜石地方森林組合】

次に向かったのは、釜石北ICから降りてすぐの場所にある、「釜石地方森林組合」。2017年には農林水産省から「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」の全国優良事例に選ばれるなど様々なことに取り組んでいます。

大槌高校の卒業生が直径50cmほどありそうな大きな丸太をチェーンソーで切り分けていくデモンストレーションをしてくださいました。巨大なチェーンソーを軽々と使いこなす先輩の姿、そしてそれを固唾をのんで見守る生徒たち。切り分け終わったときには思わず「おー！」と歓声上がるほど。

その後、事業内容の説明をしてくださいました。間伐、そして計画的な植樹に取り組まれており、森林を「守る」ことに主眼を置いた取り組みをおこなっている、という説明を聞き、生徒たちも興味津々の様子でした。



【株式会社津田商店】

昼食をとり、午後はいよいよ2班に分かれて企業見学へ向かいました。向かった先は、釜石市鶴住居町にある「株式会社 津田商店」。サンマやサバ、イワシなどを加工し冷凍食品や缶詰を製造しておられるこの会社は、大手メーカーの製品を受注生産、O E M製品として北海道から沖縄まで全国に出荷しています。

食品を取り扱う場所ということもあり、生徒たちも全身をすっぽり覆う作業服、帽子、そしてマスクと完全防備をしたうえで見学に臨みました。フル装備の状態の生徒は誰だか見分けがつかないほど。社員の方々が実際に着ている服に身を包んだことにより、生徒も少し緊張状態の様子でした。

生徒に感想を聞いたところ、「衛生面が想像以上にしっかりしていた。また、作業の流れも想像以上に早く、そして効率的でした。製造から出荷までがあっという間で、とても驚きました。」（2 A 白銀光稀さん）とのことでした。



【株式会社千田精密工業 大槌工場】

もう一つのグループは、「株式会社千田精密工業 大槌工場」を訪問。前沢、東和、そして大槌と3か所に工場があり、半導体製造装置部品や自動車関連部品などを中心に製造をされています。「多品種少ロット」で「量産はしない、魂を込めたものづくり」をモットーとし、お客様の多様なニーズにお応えできるよう、最新の機械も取り揃えられておりました。

はじめに会社の概要説明をしていただき、いざ工場内へ。工場内では、高い技術で接合されたアルミ製品や、実際に溶接をしている様子などを見学させていただきました。同時に、新入社員からベテランの技術者にステップアップするまでに与えられる仕事内容の違いについても、実際のお仕事の様子を見学しながら説明をしていただきました。

最後には、大槌高校の2年生のために、大槌高等学校の校章が彫られたモチーフを作ってくださいました。実際に社員の方がプログラミングをしたものが、図面のとおり1分足らずでプラスチックに彫られていく様子に生徒はくぎ付けになっていました。モチーフはご厚意でお土産としていただきました。

また、社長の千田伏二夫様も前沢の本社からお越しくださり、大槌高校生に「ぜひ、地元で」と熱いエールを送ってくださいました。

生徒に後日感想を聞いたところ、「細かい作業をしている様子がすごかった。社長さんのお話も感動しました。」（2A 植田基希さん）とのことでした。

